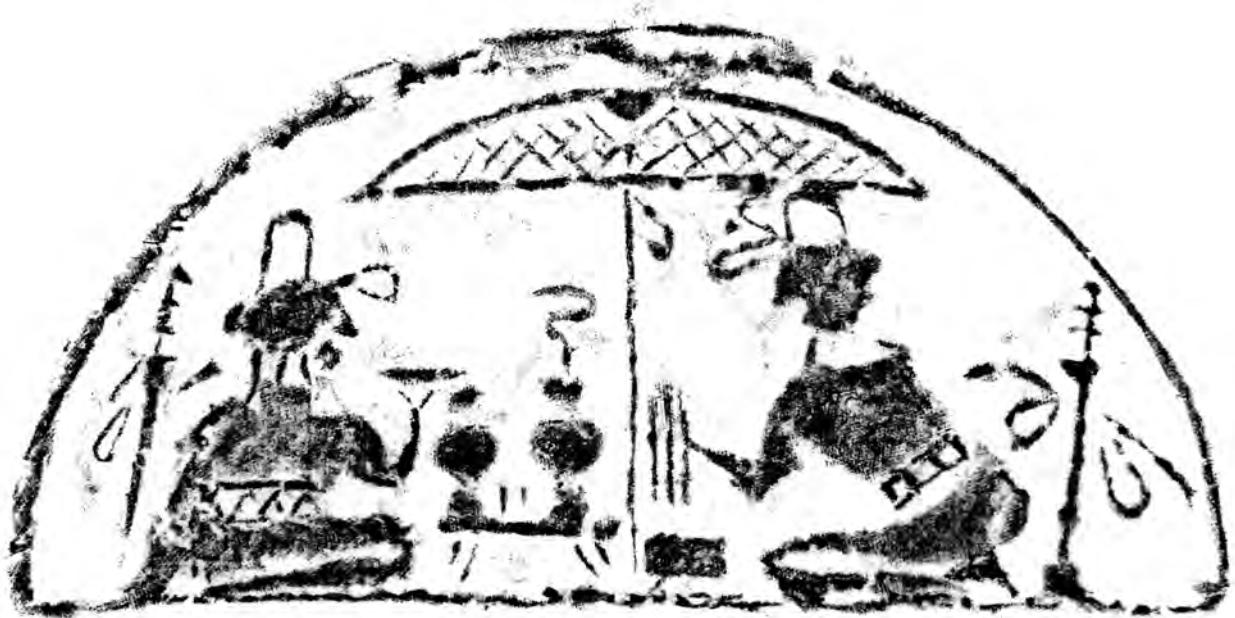


主図版①



主図版②



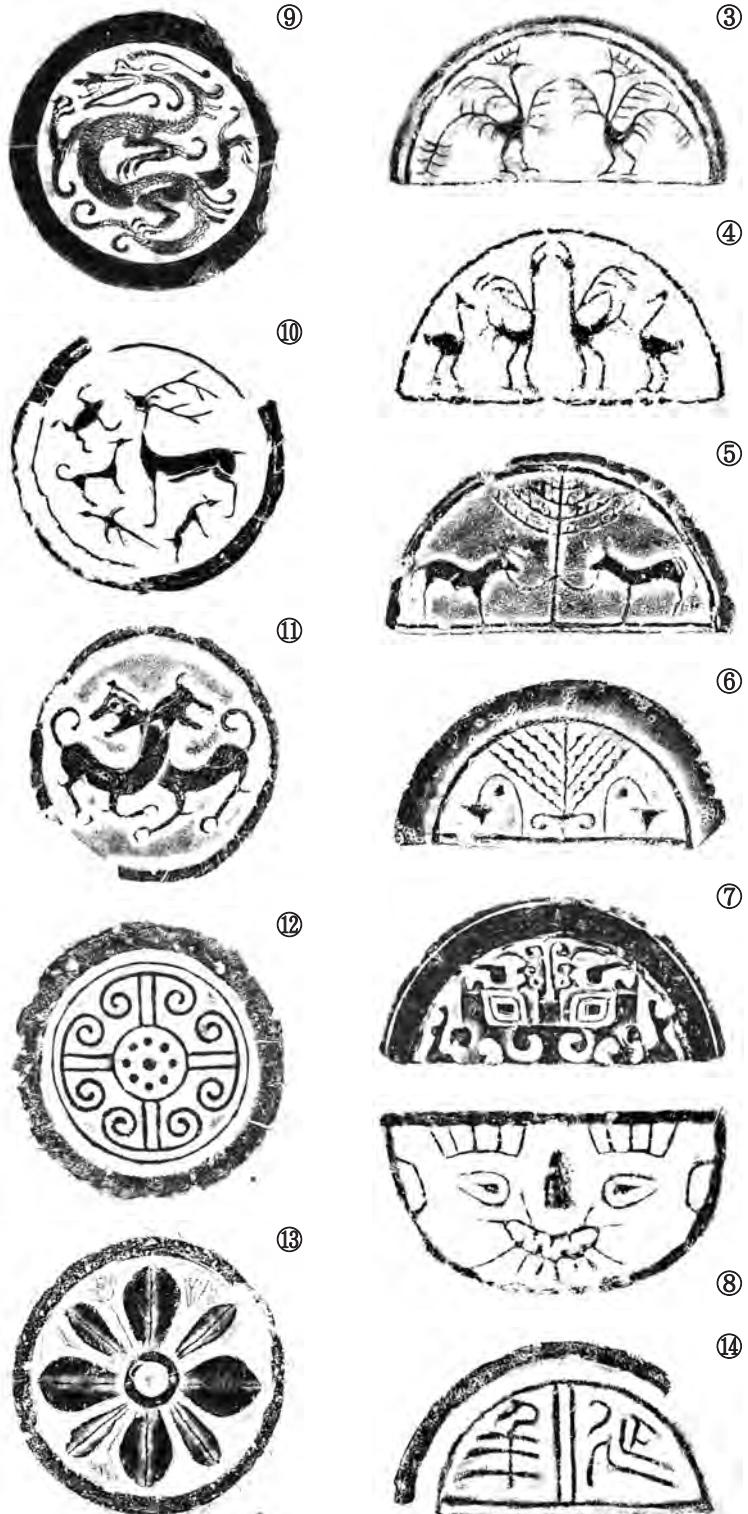
「秦漢時代の瓦当と磚文」⑧様々な図案の瓦当

数回にわたり文字瓦当を中心紹介してきたが、今回は、文字以外の紋様や画像の様々な多様性の一端を眺めてみよう。今回示した瓦当は、漢時代以前のものである。円い瓦当の半分のは、半瓦当と呼ばれている。主な図版①は、孔子の故郷に近い斉の国(の)都の跡から出土したと伝えられている。當時の貴族であろうか二人が投壺の遊びをしている様子であろうか。大変にり

アルな描写である。紀元前二、四世紀頃とされる。その他の半瓦当には、孔雀(②③)や鶴(④)、馬(⑤)などの動物、また草木の芽吹きを象徴するような抽象的な紋様(⑥)などもある。また半瓦当は漢時代にも使われ、「延年」(⑭)などの文字を入れたものも見られる。地域は異なるが、人面的(⑧)なものから青銅器のトウテツ紋的(⑦)なものもある。円形の中に躍動感ある龍(⑨)や鹿(⑩)、犬(⑪)など

を描いた瓦当は、西安あたりで制作されたものである。また雲の紋様と点と直線をアレンジした系統の瓦(⑫)は、最も多く使用されたようである。また日本古代の蓮弁模様の原形を示すような瓦(⑬)も古くから存在している。このように実に多様な意匠を施された瓦が古代に使用されていたことを物語つてゐる。

伊藤滋(書齋名・木鶴室)



書道芸術院 平成の群像 (2017)



石田和子

「歩々清風」

らい修行は厳しいのだ。その道を歩きながら、そばに清い風が吹いている。」

「自分が自然にどれだけ近づいたか、自分の心のありようによつて、自然はいか様にも答えてくれる。自分が少し成長すれば、それだけ美の扉を開いてくれる。」「それく

分の中で熟成していく感覚、美は自然と人間のかかわりの中から生まれるのだ。上村松翫先生の言葉が底深く染み込みました。

書に魅せられ50余年。

和井田要先生、名久井裕三先生に厳しく

も暖かい指導を受けました。名久井先生もご逝去されて3年、辛かった過ぎし日々が微動だにせず、心に奥深く刻まれています。「人間という生き物の普遍性に伝わるもの、いのちに直接呼応するもの、脳みその闇わりに生まれて、視覚表現されるのが前衛だ。」「文字＝伝達記号。特定地域の記号を以つて、表現芸術の絶対条件とする偏狭さが前衛書を衰退、消滅させる。」

右のような辛辣な師の言葉に驚愕するのみです。師の妥協を許さない確固たる書道理念に共鳴する自分を再確認し、尊敬の念を強くしてます。

改めて無尽蔵の世界に筆をもつ喜びをかみしめ、自然と対話しつつ、限りある命に可能性を求める命に可能性を求める命に可能性を



「物爽」 第68回毎日書道展

石田和子書

書のひろば

理事長 辻 元 大 雲

第69回毎日書道展開幕 文部科学大臣賞授受 感謝

5月末の鑑別、6月末の審査により公募、会友、U23の入選、入賞が決定し、7月5日会員賞選考、翌6日に全作品対象の文部科学大臣賞選考が行われた。公募会友などの結果は後日特集にて報告されるが、ほぼ例年並みの成績を収めた。

・毎日賞 13名（全部門合計）

・秀作賞 30名（同）

・佳作賞 58名（同）

・U23毎日賞・新銳賞・奨励賞各1名

・受賞者合計 105名

会員賞は本年残念ながら本院からは入賞者が出てなかった。次回70回展に向け会員諸氏の奮闘を期待したい。

文部科学大臣賞は全部門全出品作（毎日芸術賞、過年度受賞者は対象外）から1点選考され、本院では50回展種谷扇舟先生、66回展下谷洋子常務理事に続き辻元大雲が計らずも受賞の栄誉をいただいた。会員賞の該当なしで寂しい感があったが、最高の結果が転がり込んできて本人はもとより、会員一同にとり大きな喜びをいただいて感謝申し上げたい。



松野大臣より賞状授与

書道芸術院創立70周年記念
役員作品巡回展・四国支局展開催

巡回展開催6会場目となる四国高知

会場は7月11日～16日まで、高知市文化プラザかるぽーとを会場に開催され、更に7月23日東京芝のザ・プリンスタワーホテル東京での授賞式では、松野ワードホテル東京での授賞式では、松野ご祝辞と授賞を行っていただいたこと、そして私が県立木更津高校の担任を務めた教え子でもあったという奇遇もあり、授賞式は普段にない盛り上がりを見せたことが特筆される。僕倖に感謝感激。

同日夕刻からは書道芸術院毎日展出品者の集いが近くの芝パークホテルにて、200余名の参加者をいただき盛況の中開催、さらに盛り上がった。
(詳細報告は次号にて)

その後会場にて地元出品者2名に統一役員全員が大作揮毫を行った。会場に集った皆さんから大きな反響をいただいた。揮毫作品は翌日会場入り口に展示され大いに会場を盛り上げた。
夕刻6時から三翠園にて盛大な懇親祝賀会が催された。

「筆山は土佐の精神ぞ梅雨あけぬ」
(大雲揮毫句)

書道芸術院創立70周年記念
役員作品巡回展・甲信越支局展開催

続いて7月20日～23日、長野県伊那文化会館にて甲信越支局巡回展が開催され、初日20日午後4時より作品解説会が理事長、後藤大峰・田守光昭良担当理事のほか、小竹石雲・下谷洋子常務理事、板垣洞仙理事などにより会場内にて行われた。

また6時からは地元ご来賓各位をお招きして祝賀懇親会が伊那プリンスホテルにて開催され、大いに意氣が上がった。

今後7月28日～30日、北陸支局展が高岡文化ホール、8月6日～11日、北日本支局展が青森市民美術展示館、さ

らに関西総局、北海道支局、東京総局、最後は山陰支局展と開催される。ご支援ご協力をお願いしたい。

平成29年度外務大臣表彰を受賞
谷脇梅翠本院参与会員



谷脇梅翠先生

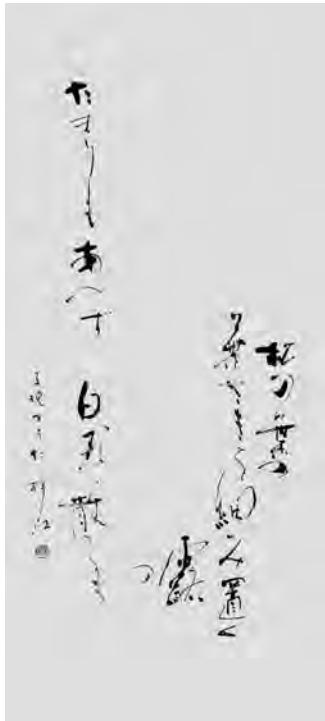
第32回毎日書道展研修旅行団
一森琴映（漢字毎日賞）、京絹子（かな毎日賞）がメンバーに

恒例の毎日書道展会員賞・毎日賞受賞者から選抜して派遣される「中国への書の研修旅行団」の選考が7月25日開催され、本院から表記2名が選抜された。団長は創玄書道会副理事長永守蒼穹理事、副団長は山田起雲漢字部審査会員、秘書長は毎日書道会関西支部長岡崎康次の各氏が担当する。

9月3日～9日まで西安・漢中・昆明・上海などを訪問する。

現代詩文書 (五)

山田梓江



山田梓江書

第61回書道芸術院展「正岡子規の句」

詩文書は、漢字とかなの基本になる形をしつかり頭に入れておかなければ書く本人は変化させたつもりでも変としか言えない文字になると教えられ、三年間は詩文書を書かせてもらえませんでした。線を鍛えるのなら甲骨文の臨書をするようにとアドバイスされ、続けること数ヶ月。何とか目を閉じても脳から腕へ、そして指先から筆の先端へ神経が届くようになります。

長い筆を持ち大字かなに挑戦した時の衝撃は、今も体に記憶しています。腰が抜けたようなどうにもならない長峰の細い筆を持ち大字かなに挑戦しました。腰が抜けたようなどうにもならない長い筆の感覚でした。

宮城野書人会の創設者、加藤翠柳先生の超長峰の線質に憧れて大字かなを始めたものの、翠柳先生の紙を切るような厳しく無駄のない線、優しく暖かな文字、狂いのないデフォルメなど、気の遠くなるような存在でしたが、少

しでも近づきたくて、毎日毎日1本の線を書き続けていました。線を鍛えるのなら甲骨文の臨書をするようにとアドバイスされ、続けること数ヶ月。何とか目を閉じても脳から腕へ、そして指先から筆の先端へ神経が届くようになります。

ようやく書道芸術院の出品を許可されました。その後、40数年間、飽きもせぬ書いておりました。

今回掲載させていただいた作品は短歌なので、かな作品風に書作したもので、時々原点に還りたくなるものです。

篆刻・刻字 (五)

清水翠径



「志欲静」

清水翠径刻

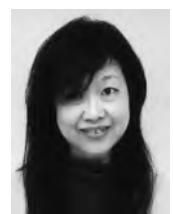
「志欲静」

を注いだ作品群を見るにつけ特別な満足感で製作過程の思い出に浸ることができます。

金箔について、皆さんは特別な興味を示されるようですが、私が使う箔は、石川県の金沢より取り寄せる生箔を使って居ります。極薄に打ちのばされた純金の箔は取り扱いに特別な神経を使いますが、過去自分の心血

を注入した作品群を見るにつけ特別な満足感で製作過程の思い出に浸ることができます。

箔処理の方法として、新聞紙にボマークを小豆大のせバレンにこすりつけ箔についたらうす紙を箔バサミで静かにつまみ、新聞紙の上にうつす。箔のうす紙にバレンで油をのばしつけ、次に箔の上にうす紙をもうし油のついた面をのせバレンでなでうす紙に箔を密着させ、箔バサミで金箔を扱い文字の太さに応じて箔を切る。カシューを小皿にのせ、指先につけ文字の表面に指で叩くようにして薄くのばす。細かく切った箔を文字面に静かに重ねるようにおき、箔おしを続け真綿で箔をおさえて密着させる。カシューが乾いたら、やわらかい刷毛で余分な箔を表面にキズつけないように払う。これで金箔仕上げ作品の完成である。蛇足ながら銀箔、銅箔は年数の経過とともに酸化し黒くなるのでそれなりの処理が必要です。



妻 藤 江 葉
(鳥取)



「凜」

師・仲間への感謝を忘れずに、いつも背筋をのばし、しっかりと目を開き前を向き、何事に対しても「凜」とした姿勢でのぞんでいきたいです。



板 橋 雅 邦
(宮城)

「日々精進」

書をはじめて30年。私にとって生活の一部であり離れることの出来ない存在となっています。楽しくもあり、苦しいこともありますが、常に何かを探究し日々精進することの大切さを教示してくれています。今回はその思いを書作しました。

(雅邦)



大 和 愛 香
(宮城)

「煌めき」

この度、審査会員へ昇格させていただきありがとうございます。大変光栄です。様々なことを吸収し、常に前進、進歩していきたいと思います。今後も、より一層、努力していきたいと思います。

(愛香)



錢 谷 雪 蘭
(青森)



「誓子の句」

素晴らしい作品の前で人は足を止め、しばらくの間作品に見入ってしまいます。私の師である坂本素雪先生の書の前で、そんな風に立ち止まる人を私は何人も見てきました。私も今後一枚でも多く、人を惹きつけられる作品が書けよう、精進していきたいと思っています。(雪蘭)



大 和 愛 香
(宮城)

「煌めき」

この度、審査会員へ昇格させていただきありがとうございます。大変光栄です。様々なことを吸収し、常に前進、進歩していきたいと思います。今後も、より一層、努力していきたいと思います。

びじんとうしほしめい
美人董氏墓誌銘

(隋・597年) ②

特別研究部臨書課題

II (半紙普通判・縦使用) 左記の法帖より何文字臨書してもよい。

当該古典の左記掲載部分以外も可。

解説 隋代の代表的な墓誌銘に、この美人董氏墓誌銘(597)、龍山公墓誌銘(600)、蘇孝慈墓誌銘(603)、太僕卿元公墓誌銘(615)、元公夫人姬氏墓誌銘(615)がある。美人董氏墓誌銘は、隋の墓誌銘中の第一の傑作とされている。楚々と

したたたずまいをもつ格調高い楷書で、鋭い線質ながらも、字形の整った穏やかな書風が特徴である。唐代における完成に向け、楷書が徐々に洗練されいく過程が見て取れる。

(編集部)

接上順以承親含華吐艷
竜章鳳采刃炳瑾瑜達芳
蘭蕙既而來儀魯殿出事
梁臺搖環珮於芳林核綺
續於春景投壺工鶴飛之

(掲載図版原寸)

※落款を必ず入れる。署名、もしくは〇〇臨(押印のみも可)

接上順以承親含華吐艷。龍章鳳采。砌炳瑾瑜。庭芳。蘭蕙既而來儀魯殿。出事。梁臺搖環。珮於芳林。核綺。續於春景。投壺工鶴飛之。

高野切第三種（伝紀貫之）②

かな研究部
臨書課題
(半紙普通判(料紙可)・縦長に使用)
別紙を裁断して貼付も可。半廢紙は半紙サイズに切って使用のこと。
上記の古筆の掲載部分より歌一首以上を書く。(全臨も可)

〈よみ〉
かみなづきしぐれふりおけるならのは 寛平の御時に、うたってまつりける
のなにおふみやのふるごとぞこれ ついでにたてまつりける

大江のちさと

特別研究部
臨書課題
(毎日展公募サイズ以内・縦横自由)
上記の掲載以外も可。

※掲載図版は85%縮小
〔解説〕高野切は、
一面に雲母砂子を撒いた厚手の麻子風の
料紙に書写されている。「高野切第三種」
の筆者は、高野切本の現存する9巻のうち
古今集卷第一八・一九を担当している。
用筆法・造形上の特徴として直筆による
滑らかな線条、運筆の伸びやかさ、自然
で軽快なリズム、簡略化された字形、空
間の広さ、そして墨色のさりげない濃淡
の変化があげられる。

高野切三種類の中でも最も清新で、明るく
流動美あふれる書風を展開している。

(編集部)

※落款を必ず入れる。
○署名、もしくは○
○臨(押印のみ可)

(個人蔵)

習い方解説 (五)

稻垣小燕

悠悠蒼天 (唐風・鴉羽)
(ゆうゆうたる そらてん)

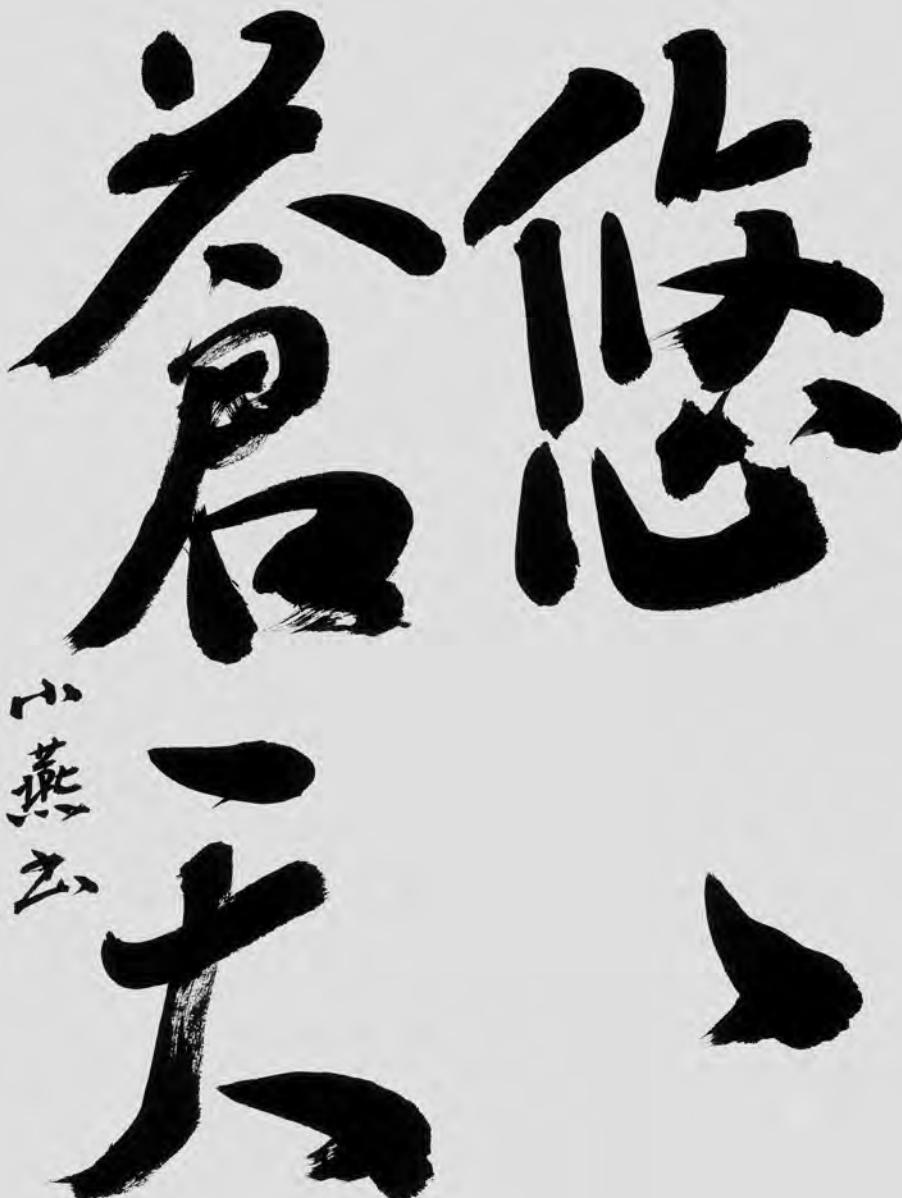


悠悠蒼天 悠悠たる蒼天
曷か其れ常有らん

はるかな青空よ
いつになつたら平常にかえる
のか。

遙かに限りなく続く青い空を仰
ぎ、戦場にいるこの人は空の向こ
うに住む父母の安否を憂い、世が
平常に戻ることを願っている。

青い空とこの憂いを書作品の中
でどのように表現して書くかがこ
こでの課題でした。「悠悠」と書
かず「悠ゝ」にし「余白」と「ゝ」
の構成に限りなき空と憂いを表現
してみました。



悠悠蒼天 よみ (悠悠たる蒼天)

書体=自由

習い方解説
(五)

大野祥雲

筆精墨妙
ひつせいぼくみょう

書法が優れてりっぱなこと。

「筆」いわゆる書写体(筆)で書く。横画が多く、しかも左右対称。堅苦しくならないよう、線の大小、間隔などに多少配慮した。

「精」構成上「相讓相避」の代表のよ
うな文字。偏と旁の力関係を互角に書いてみた。
横画が多く、間隔、接筆に注意した。

【墨】横画は細い線、縦画は太く書いてみた。4つの点については、大小、筆圧を考えて書く。墨はくろい土で黒いが、構成上は明るい文字にしたい。

「妙」 女偏は比較的細く書き、3
画目を右上がりとし、旁へ
の氣脈貫通とした。最終画
の左払いは伸びやかに払う。

筆精墨妙　よみ（ひつせいぼくみょう）

書体 II 楷書

用紙
半紙普通判

かな規定 初段以上【九月十五日締めきり】用紙 半紙普通判(料紙可)

大辻多希子選書

習い方解説 (五)

大辻 多希子

むらさきの睡蓮すいれんの花はなほのかなる
息いきしてなげく水みずの上うえかな

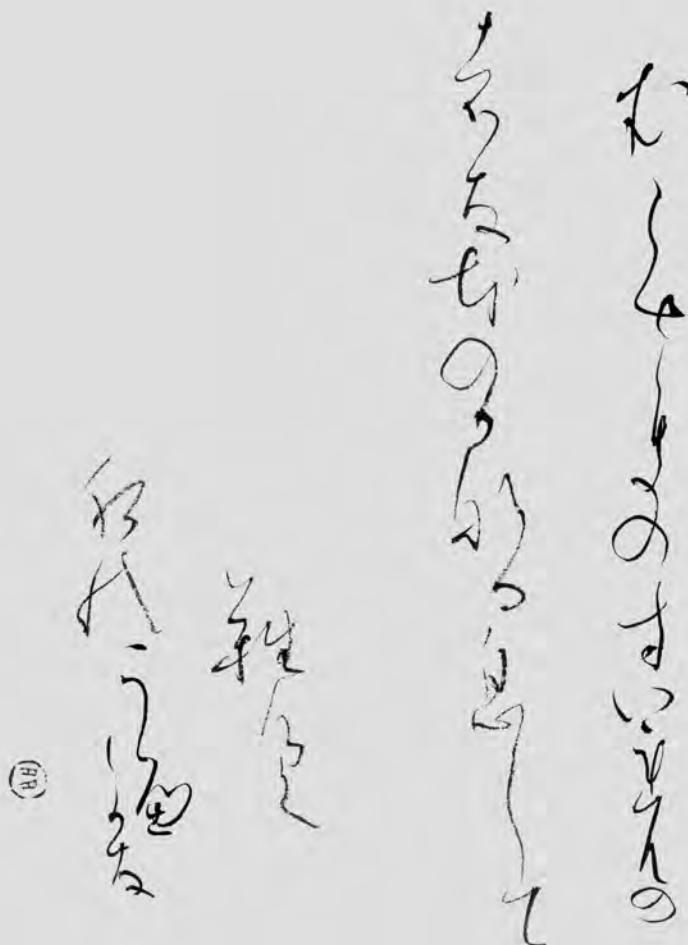
(与謝野晶子)

作品の創作では、出来上るまで、何回も推敲を繰り返します。それは作品創りの苦しみと楽しみの始まりであります。

文字の形や、画数など考慮しながら布置を決めます。漠然と文字を配列しただけでは美しい作品になりません。同じ大きさの文字が続いたり、並列する行と字粒が揃いすぎては平面的になります。

創作に迷った時 古筆に頼りますが「関戸古今集」は、歌一首を、2行または3行に並列。構成は単純ですが、線は多面的で変化に富み、紙面に強弱、緩急、抑揚の落差を大きく作り出しています。

初心の方は参考にして下さい。



よみ方 むらさき(支)の睡蓮(すい連元)の花(者奈)ほ(本)のか(司)な(那)る

息してな(難)げ(介)く(久)水の(能)上(う遍)か(可)な(奈)

創作

半紙普通判(料紙可)

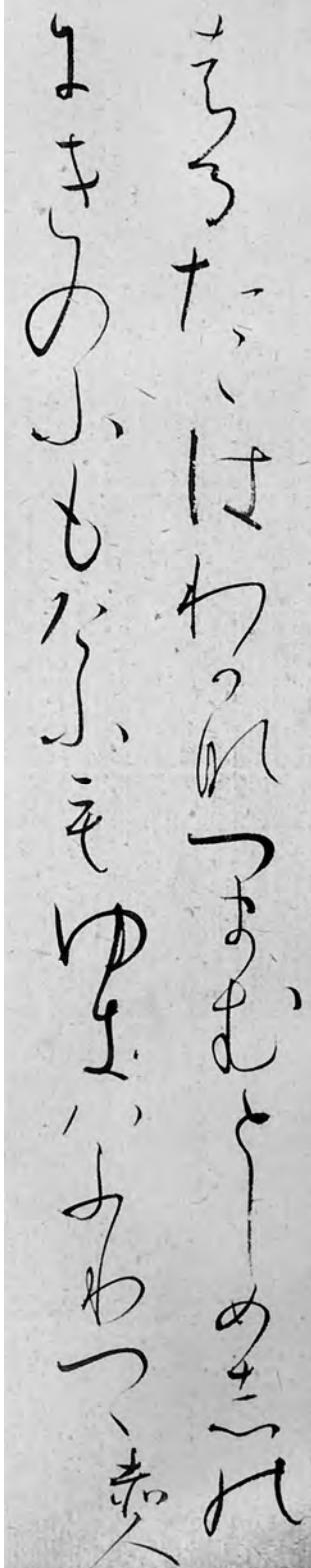
大辻 多希子選書

かな規定 秀級以下【九月十五日締めきり】用紙 半紙タテ $\frac{1}{2}$ (料紙可) (たて32センチ・よこ12センチ)

◎四月号より課題を「粘葉本和漢朗詠集」に変更いたしました。

掲載写真の和歌を臨書する。または部分(2字以上の連綿)を臨書する。

粘葉本和漢朗詠集
(掲載写真拡大111%)



よみ方 は(者)るたゞばわか(可)な那(那)つまむとしめし(志)の(能)
に(尔)きのふもけ(介)ふも(毛)ゆき(支)は(八)ふり(利)つゝ 赤人

習い方解説 (二)

松 村 くに子

秋近きけしきの杜に鳴く蝶の
涙の露や下葉染むらむ
(新古今和歌集・撰政太政大臣)

何枚か練習をしたら一度、ご自分
の作品を吊るして、じっくりと
眺めてみてください。

縦作品は、字が極端にずれてい
ると不自然です。左右に流れるこ
とは必要ですが、また、中心に戻
すことが大事です。つまり、行の
中心を通すということです。
それらは、古筆の勉強をすると
より分かると思います。

よみ方 秋近きけ(介)しき(支)の(能)杜に(一)鳴(奈)く(久)蝶の
涙(那三多)の露や下葉染(そ)む(無)らむ(无)

創作

*タテ形式に限る

辻元大雲



何處秋風至 蕭蕭送雁群 朝來入庭樹 孤客最先聞
(何の処か秋風が至る 蕭蕭として雁群を送る)

(劉禹錫)
朝来庭樹に入る 孤客最も先に聞く

書体=自由

今回から五言絶句20字表現です。
14字と違い半切に2行書きする場合、配字に注意が必要です。行草表現する場合、文字の大小を取り入れ、変化ある作に挑戦してください。参考例は隸書表現です。整然と並んだ表情が要求されますので字形と字間の統一を心してください。水平、藏鋒、平出、波磔表現など隸書の基本用筆をマスターしてください。

*タテ形式に限る

習い方解説 (五)

牧 泰濤選書

漢字条幅規定 秀級以下 【九月十五日締めきり】 用紙 小画仙紙半切

牧 泰濤選書



書体=自由

学問をする者は、山に登ることと同様。一步一歩進まなければならぬ。「学如不及」(論語)とあるが「書如不及」ともいえる。筆は前月と同じ。2字2字1字と墨継ぎ。用紙の真ん中に文を書くこと。なのに山字が少し右寄りになったので押印した。全体のバランスをとるために。ご参考に。自分好みの字形で大胆に書こう。

學者如登山
(学は山に登るが如し)
(徐幹)

習い方解説 (五)

川島舟錦

少女たちが歌い終うと、
ベンチの観客席から拍手が
起きた。私も手をたたいた。
その瞬間である。ふと
風が立つた。舟錦書

行書体は、楷書体に比べて、緩急、抑揚、筆路がはっきりしています。力のいれ具合や速さなどによって、線はいろいろ変化し、強弱、太細も自然に出ます。

気脈やリズムを大切にし、中心線を意識しながら、のびやかに。書く機会ができるだけ多くしてたくさん練習しましょう。

※落款(自分の名前)を必ず入れる。

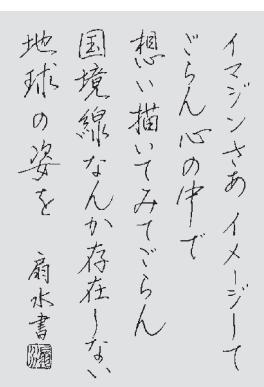
用紙=はがきの大きさ(148×100mm)、白色のもの、黒インク使用のこと

書体=自由

今月の

ホープ作品 各部総評

No. 674



ペン字部 師範 富原 瓜水
一点一画に心を込め、漢字とか
な調和が見事。氣宇大にして格
調高く、日頃の研鑽の賜物か。
◎ペン字部總評 全般的に漢字・
かな・片仮名のバランスが良く、
完成度の高い作品が多く喜ばしい。
更なる高みを目指して！(和楓評)



前衛書部 特選 岡田 裕子
緩やかな運筆で潤滑を生かす構
成がとても清々しい。明確な意図
と熱意を感じます。
◎前衛書部總評 多様な意識を感
じ楽しく拝見。線を大切にして更な
く意識の高揚を求めます。(霞香評)

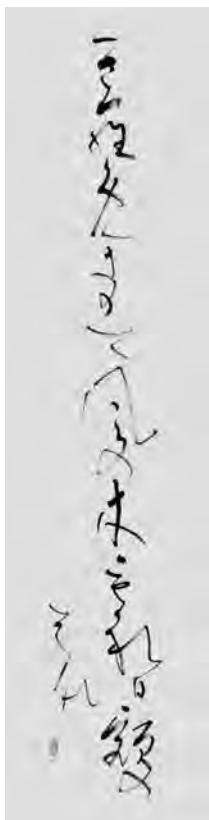


現代詩文書部 特選 穴戸 珠葉
大空にもみじが輝く大自然の情
景が浮かびます。ゆったりとした
余白と弾力のある線質が魅力的。
◎現代詩文書部總評 文字構成や
呼吸を大切にした自然な作が増え
ました。(鄭雲評)



かな条幅部 師範 齋藤 杏邑
かな条幅部 淡々とした表現で格
調高く仕上った。鍛えられた強い
線の力です。印の位置、要再考。

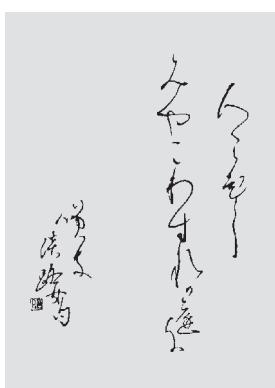
◎かな条幅部總評 額の誤字多出
と過大な字粒で紙面をうつとうし
くしたものが目立ち残念。軽やか
な調和を研究のこと。(明子評)



漢字条幅部 師範 熊谷 桃華
漢字の通貫した流れよい行草体。
濃墨による潤滑を活かし、練度の
高い作である。

◎漢字条幅部總評 書体書風自由
の割に表現幅が少ないように感じ
られる。もっと多様な取り組みを
期待したい。特に上級者。(大雲評)

かな部 師範 三田 蒼舟
弹性の利いた線がしなやかに流
れ、よく研究習得されています。
◎かな部總評 字数の少ない俳句
は、紙面に對しての大きさ、太さ
などに配慮が必要。拡大コピーで
生き生きとしたタッチに惹かれた。
感覺をつかむこと。(洋子評)



漢字部 師範 大槻 刚洞
漢字部 漢簡に習熟し、一点一画に表情
が盛り込まれ、躍動感に溢れる隸
書作品。真摯な学書の成果です。
◎漢字部總評 上級は、古典學習
の成果が窺える上質な作が目につけ
た反面、校字が手抜きで字形曖
昧な行草書作品も散見。(萬城評)



今月の

特別研究部優秀作品(特選)

(現代詩文書) (大雲)

松永香秋



松永香秋書

180×50cm

「成美の句」

◆羊毫筆によるのびやかな線を生かし直線的な方筆表現を大胆に展開する。運筆の大きな広がりを買う。(大雲評)

(鄭雲評)
◆熟練した方筆で、強い線質に弾力があり、見事な形を表現している。少し線に厚味が欲しい。

◆方勢の切れ味鋭い特徴を大胆に展開し、スケールの大きい表現に圧倒される。落款のおさめ方で更に纏まとった。(矩子評)

◆造像記を大字で表現し、墨色もよく、雄大で豪快な臨書作品となっている。落款の位置・大きさ等を工夫されたい。(仙草評)

(臨書) (大雲)

佐藤希雲「牛欄造像記」



135×70cm

◆鋭い線質で渴筆がきいて躍動感溢れる作品となつた。空間處理も美しい。更なる活躍を期待する。(仙草評)

(大雲評)

◆二層紙の厚味を濃墨による潤渴で生かし、大胆かつ躍动感ある作。中央部の渴筆やや浮いたか。(矩子評)

(大雲評)

◆下部から突き上げる渴筆の運動が上部の潤いに繋がり、再び理も美しい。更なる活躍を期待する。(鄭雲評)

(仙草評)

◆余白と渴筆の部分に魅力を感じる。動き大きく上から下へ流れが自然で爽快な作となつた。(矩子評)

(大雲評)

◆下部から突き上げる渴筆の運動が上部の潤いに繋がり、再び右の線が下方に訴えかける。振幅が魅力。(鄭雲評)

前衛書 (白珠) 相内沙莉「昇る」



相内沙莉書

179×60cm

◆淡墨のやさしさの中にたっぷりとした温かく包み込むようなゆとりのある作品。かなのが巧みな細線が成功か。(鄭雲評)

◆淡い青淡墨のにじみが美しく広がり、のびやかで情感溢れる作。平がな部分やや弱々しい。更に鍛練を。(大雲評)

◆淡墨の柔らかさ、潤渴の変化を生かし自然な流れのある心温まる書。かな部分工夫すれば更に佳。(矩子評)

◆やわらかい書線で大字で表現され、見る者を飽きさせない堂々の作となつてゐる。仮名やや大きいか。(仙草評)

漢字研究部
(牛欄造像記)

選評 川島舟錦

今月のホープ作品



茂木絢水

現在ある位置で、しっかりと法帖と対峙した伸びやかな用筆に心惹かれました。今後、何度となく造像記に向き合った時、また異なる見方や表現になること。その時、確実に成長しているであることが伝わってくる作品。

◎漢字研究部総評

子息の冥福を祈った文字は丁寧に刻され、端正な美しさと力強さに品格を兼ね備えた造

漢字研究部 特選 茂木 絢水

像記。起筆、転折の角度、方筆で角ばった点

画の形や字形を踏まえて、それぞれの思いを込めて臨書された約1200点を審査させていただきました。今回も、用具用材の質や練習の量を感じるところです。上位の皆さんとの差は、この2つにあると思います。



照祐美雅京静
子依和悠子溪

雅惠花嘉惠美
裕子源美泉怜

梨美鳳惠久朋
秀梢雪仙美美

信杏紅紅桃友
子邑霞雅華里

かな研究部
(秋萩帖)

運評 松村くに子

今月のホープ作品



心和万里
華子

炎蕙清
秀睦玉

美香春
加子舟華

嘉清知津
江耀子

高橋雅泉

◎かな研究部総評
字の太細、墨色は良く表現されていたと思ります。
運筆は、古筆の特徴を良く捉え、筆者の臨書に対する心構えが伝わってきました。
行尾の位置が古筆と少しずれている人が目立ちました。
た。行の長さ、行間等にも心配りを。

かな研究部成績表

| | かな研究部 | 特選 | 高橋 雅泉 |
|------------------|--|----|---------------------------------------|
| 花日文う椿大 舞新月る翠阪 | 蓮雲有楓大天白八澄高大清う高紅竹調無高紅澄清大正竜 紅雀秋葵雲樟子生春崎阪月る井風扇布門崎瑞春 | 特選 | 重厚で迫力ある草仮名。ゆったりと流れるような |
| 秀 | 本下石後草中牧篠深根生境今梗福山武山小須田宇小林萬石高橋 伊藤橋井高藤羽木美多 | 選 | 運筆は、古筆の特徴を良く捉え、筆者の臨書に対する心構えが伝わってきました。 |
| 作 | 惠 | | 字の太細、墨色は良く表現されていたと思ります。 |
| 悦嘉澄代恵松子 水生子月 | 美裕洋良眞星優美佳飛萩和心里炎蕙清加香春華江耀子 雪美子泉華子子月龍花子華子秀睦玉子舟華江耀子 | | 運筆は、古筆と少しずれている人が目立ちました。 |
| 紅 | 正京調清高椿大前た玉青紅泉上小大旭澄弘大や菊大正千白正こ正書Aや 瑠璃橋布月崎月翠雲橋か川蓮風会泉映雲老春舟雲ま月雲華葉扇華こ華游Iま | | た。行の長さ、行間等にも心配りを。 |
| 佳 | | | |
| 藍澤 | 鷺吉行大松真平日春浜野沼西永中豊積高新渋驚齋高木菊神金加如小伊伊 沼田平和浦下山高山野中田田尾鳴田橋行谷山藤原地田谷合野藤東明 | | |
| 作 | 由 | | |
| 白珠 | 将佑良紀玉佐つ右勝永喜奎雍時恵雅真満美美つ玄輝泰典寿翠日よ寿京 太子江江代子真美童子心子子勝雲薰子子梢え功城子峰子香陽夏こ子子 | | |

| | |
|-----------------|---|
| 菊も松玉高 月く村松陵入 | 明琇書東高椿竹五あ椿石高澄瓈華木遊線上大青琇竜薏詢高静光の大文長梓蘭安も椿渡誠澄陽水光松 漢韻游伯真翠美葉か翠習井春頬仙曜雲草泉阪峰韻泉書扇崎か紅彩か雲筆月江鼎波く翠辺和春陽街葉海大彩村 |
| 新青青會 井木木木木 | 吉吉遊山山安八森本三松増真前堀西苗中中竹泉関鈴神狼佐櫻小黒熊木川川小岡大鶴字岩井飯飯新浅阿 田川佐本岸鳴木田吉上丸田塩川江澤代村西西内水口木宮渡藤田林柳谷暮元崎野部島沢井瀬崎上田泉井川久澤隆 千真眞眞橋 |
| 惠藤玉葵勇 子達枝郷介 | 鶴幸一真奈砂紀睦明裕愛代華榮瑛幸彩佳ゲ恵玉智龍芳利玉莖静龍見竹紫柴典茱優久昌淳琴楠祥陽芝光洋翠な 子惠榮榮子舟子香子石子秀子仙泉峰恵子子泉子宝枝子枝右子貞代葉蘭子仙子美子子舟麗園光雲彩子賣江華 |

| | |
|---|---|
| 正竹書正八 華原游華街 | 高澄英八京蒼高奥大高墨た千附高幕生立大大塙澄正樹大苑大澄桜梅正高たA正久誠竜雲千華岩正洞坪大も 華原游華街崎春峰街橋陽崎田阪陵花か葉中崎張大精阪雲韻春華原雲書阪春草桃華真かI華實和泉溪葉祥沼華 |
| 鈴神代庄柴佐酒酒齋斎近込小小小小河國北北菊上河加金加葛片小小大大大梅梅生鶴岩入今猪板石石安安荒新 木保田司田々井井藤藤山林林瀧口野野峰村村又地林合納杉藤山野野川森西木山津方澤渕谷村井垣毛毛藤木井 | 佳由 |
| 睦佳葉詠洋美知惠翠早桂松美武純萩久智白蕙翠欣惠春白萩和順紫春蕙惠加萩輝佐一教久代美李祥悠貴漢理青正優寿楊裕孫藤 心子子艸子子香苗子春艸尚風江蕙子董子翠子舟峽雅溪敬子峰菜美風都光峯子美譽子子名苑花泉仙扇鳳子賀乃風子功雪 | |

| |
|---|
| 芳椿昌蓮華幸や竹高蘭松天梓硯菊こ玉大墨白幕長前大長正樹東は大玉上土舜一玉千大秀も春高一泉上玄春王や有天上 遷蘭翠苑紅仙扇ま峰崎鼎草村璋江水月だ川雲宣露張月橋阪月華原向せ阪松泉氣水葦川葉阪水く汀真宮会泉宮汀松ま秋璋泉 外 |
| 208 渡綿吉遊山山柳矢森守茂武宮宮宮湊三真松松增別廣平林早富長橋橋根西中中戸富戸渡鶴辻塚千田田田武田草木千代子 名邊井田佐本口口友木藤田澤崎川浦庭村島田府地山坂山谷本岸澤村村澤田本澤部子淵田本葉原中玉山口草木千代子 名略 |
| 信お翠紅美梅律隆登直津翠奈千草英洋美道ケ陽翠佳信美大美梅芝久都紅正瑞舜一博萩蕙藤紀亞雅洋え陽蕙耶哲花代 溪子綾雅楓香子扇江子子芳子代秋明子子ミ子舟子子幸子子艸香子子霞子美水琴綾舟影子風子希裕子子子衣子源子 |